

人権なら

2017年12月1日

第84号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

第10回研究集会に向けて

9月開催の「差別と人権」研究集会を総括

9月2日に開いた第9回奈良県「差別と人権」研究集会の総括会議が11月9日、三宅町「あざさ苑」であった。集会実行委員会加盟団体の代表者や当法人関係者が出席した。



植村照子・実行委員長が「皆様のご協力が無事研究集会を終えることができ、心より感謝する。今後も地域社会に人権意識や人権の取り組みが根付いていくよう、ともに取り組みを積み重ねていきたい」とあいさつ。香川明英・事務局長が研究集会の概要を提案。開催日程、記念講演、第1・第2分散会、全体会などについて討議した。第1回から第9回までの参加状況の推移も確認。収支決算も承認した。

記念講演を受けて深まった分散会での議論

記念講演は、長瀬修さんがナチスドイツの「障害者」安楽死計画と「障害者差別解消法」や、2014年批准の「障害者権利条約」の視点を提起した。

分散会は、第1で、「津久井やまゆり園」事件を受けて、入所施設の実態が語られ、希望が持てる地域社会での生活の在り方について討議した。第2では、幸重忠孝さんが子どもの居場所づくりの必要性。市本貴志さんが地域での子ども食堂の取り組みを提起した。子どもが抱える課題について、どこに持っていけば解決が図れるのか。子ども食堂が根付いていくことで、親や高齢者にとっても安心できる場になっている、と

の意見が出た。全体会では、分散会での討議内容が報告され、会場の5人が意見を述べた。

テーマの設定など、検討すべき課題を確認

山下力・副理事長は、分散会での討議はとても大切な課題。来年は10年を迎える。今研究集会は許せない現実に異議申し立てをする中でこそ、私たちの正義に確信が持てるかと教えてくれた、と締めくくった。

総括討議では、①参加者の送迎が1度に集中するため、車の台数を増やす必要がある②第10回開催に向けて検討委員会を設けてはどうか③福祉以外のテーマも設定しては④今の時代、「命の消費」が大きなテーマではないか、など、様々な意見が出た。次回の研究集会に向けて事務局で検討していくこととした。

確定申告の相談説明会

県中小企業者協会(山下力・会長)は12月18日から21日まで三宅町上但馬団地解放会館など4か所で確定申告相談説明会を開く。各説明会は次の通り。

期 日	開 催 時 間	場 所
12月18日 (月)	午後6時受付・ 6時15分開会	石上コミュニティーセンター
12月19日 (火)	午後6時45分 受付・7時開会	河合町心の交流センター
12月20日 (水)	午後6時受付・ 6時15分開会	三宅町上但馬団地解放会館
12月21日 (木)	午後6時受付・ 6時15分開会	西田中町ふれあいセンター

問い合わせは、県中小企業者協会(TEL:0744-33-3939)まで。

4講座と現地見学で学習

横浜市教育委・と場関係者が奈良研修

横浜市教育委員会・横浜と場関係者が10月27-29日、奈良現地研修を行った。

27日。第1講は山下力・NPOならん人権情報センター副理事長(写真)が「被差別部落のわが半生」をテーマに講演。「部落を隠す・逃げるの青春時代」をくぐり、部落解放運動との出会いと闘いの日々、多くの苦悩・揺れを抱え、差別と向き合ってきたことを話した。昨年7月に起きた「津久井やまゆり園事件」にも触れ、当事者の立ち上がりに鼓舞され、「差別と排除」に立ち向かうことの大切さを語った。



第2講は古川千賀子さん(写真右)と福嶋明美さん(同左)が「劇団・かいほう塾の歩み」をテーマに話した。

1997年当時、勤めていた三宅小学校の「反戦平和登校日」で教員たちが創作劇を演じたのが



始まりで、もう20年が経つ。三宅町の「部落解放交流祭」(現「生き活き交流祭」)で上演を続けてきた。現在は、地域の人々や卒業生ら40人を越えるメンバーがいて、和やかな雰囲気の中で活動している。2014年に上演した劇を収めたDVD「山辺食堂の人々」の映像を紹介。劇は被差別部落の中にある食堂が舞台。出入りする人々の織りなす日常を描いた。「涙あり、笑いありで、どの作品にも思い入れがある」と話した。この活動を通して「自分が変わった」との話が胸に響いた。

山添村西波多地域の生活や歴史を学ぶ

28日。小雨が降る中、山添村西波多へ。「西波多児童館・老人憩いの家」で2講座。第1講は富岡初則・NPO山添支局長が「西波多地域のこと」を話した＝写真。1968年、結婚を機に生活が始まり、当時は戸

数13世帯の小さな集落だった。結婚後、7年も「同和地区」とは知らずに過ごした。「関ヶ原の戦いに敗れ、敗走した薩摩藩の甲冑武士が流れて、ここに住み着いた」との村の伝承を紹介。地域の仕事や生活のほか、解放同盟の活動に参加してきたことなどを語った。



次男の久能さん(写真左)も「他の地域とどこか違う」と感じながら小・中学生時代を過ごし、〈孤立〉感を抱えながら高校生になり、解放同盟の集會に初めて参加。その後、青年部活動にも参加するようになった。「現在は地域青年団で活動している」などと話した。

史料「波多野村風俗誌」などに「移転伝承」

第2講は、吉田栄治郎さんが「西波多小場のあゆみ」をテーマに講演。吉田さんは「山添村の部落史」の調査・編纂に携わってきた。それを元に、数少ない史料から「移転伝承」を説明。①葛尾村から移転伝承(大正4年1915「波多野村風俗誌」)②『大和同志会回顧録』(昭和17年1947)。生業として、明治10年(1877)「西波多村戸籍簿」から「皮屋」が存在したことや、田畑や屋敷の所有なども紹介。興味深いのは昭和24年の「改姓」の取り組み。全13戸中10戸が川向姓。地域が川の東向側にあるため、そう名乗ったという。

午後。雨の中、富岡さんが地域内を案内。傾斜地に現在、7世帯が生活。

地区改良事業で整備された墓や寺(現在は公民館)などを見学。



そのあと、久能さんの案内で「神野寺(こうのじ)」(写真)に。聖武天皇時代の天平12年(740)、行基が建立したと伝わる。平安初期には名刹として知られていたという。山腹にあり、茶畑と林の中に佇んでいた。「神波多(かんはた)神社」にも立ち寄った。除疫神の牛頭天王を祀る。秋祭りの準備中で神楽(獅子舞)を見せてもらった。

城下町郡山と周縁部を歩く

県民歴史講座で大和郡山をフィールドワーク

第4回県民歴史講座が10月24日、「城下町郡山とその周縁部を歩く」をテーマにあった。県立同和問題関係史料センターの清水由紀さんが案内した＝写真。

コースは近鉄九条駅－外堀跡－嶋ヶ池（水利記念碑）－植槻八幡神社－桜聞跡－鉄門跡



－郡山城址・柳沢文庫－カトリック大和郡山教会－柳門跡－光慶寺－魚町会所跡－お土居公園－旧観音寺村－柳橋・大神宮燈籠－平城京西市跡－九条駅。

郡山城は、外堀によって城と武家地、町人町を取り囲む「惣構え」と呼ばれる織豊期城郭の典型的な構造。外堀は明治以降、多くが失われた。だが、北・東側には用水路や湿地として残っている。桜門跡は、城の北側入り口として柳門と鉄門（くろがねもん）とともに重要な門であった。郡山城は明治6年（1873）、太政官達によって廃城となる。本丸跡地には、柳沢文庫が明治14年（1881）に建立された。「郡山城址跡・柳沢文庫保存会」は2013年に公益財団法人となった。柳沢家歴代藩主の書画をはじめ、郡山藩政史料など、数万点にのぼる古文書・古典籍などを所蔵する。2017年4月には、天守台展望施設が完成した。

浦上キリシタンが大和郡山藩にも流配

カトリック大和郡山教会の敷地内に「浦上キリシタン配流記念碑」がある。もともと、雲玄寺（現良玄禅寺）境内に大正15年（1926）に建てられた墓碑だ。流配中に死亡した信徒の名が刻まれている。慶長19年（1614）、全国に布かれた禁教令以降、江戸時代を通じてキリシタン信仰は禁止される。幕府や諸藩は宣教師やキリスト教信者に対して処刑や国外追放など、激しい迫害を加えた。明治維新後も政府は、明治2年（18

69）、浦上（長崎県）のキリシタン3千余人を全国20藩に配流する決定を下す。明治6年（1873）に解放されるまで、大和郡山藩にも86人が流配された。

光慶寺は浄土真宗本願寺派。境内の墓地に柳三丁目が開業していた藩医谷家の墓がある。緒方洪庵に師事し、元治元年（1864）2月、『種痘弁』を刊行。慶応2年（1866）3月、大阪の除痘館から分苗を受け、自宅に種痘場を開いた。境内には、明治21年（1888）11月5日、郡山で初めての人体解剖に献体した旧郡山藩士、志村新七の遺徳を称えた記念碑がある。

魚町会所跡は浦上キリシタン19人が収容された会所のあった場所と想定される。秋篠川に架かる柳橋と伊勢神宮信仰の大神宮燈籠がある奈良口は、古くから街道として栄えた。もう一度、歩いてみたい地域だ。

子ども食堂から見える貧困

第3回河合町人権学習講座が11月10日にあった。「CODOMO 食堂かんまき」の中山真由美さんが「子ども食堂から見える子どもの貧困」をテーマに話をした。

中山さんは小学校のPTA活動を通して気になる子どもに出会う。「どんな家庭にも外からは見えにくい現実の重たさや、個別の事情がある」ことに気付かされる。まずは「できることから行動しよう」と、「子どもを真ん中にした地域にするために」、子ども食堂を始めた。



中山さんは「しんどさの背景」や「貧困の連鎖」、2016年の「こども食堂ネットワーク関西」、2017年8月26日の「こども食堂ネットワーク奈良」設立について話したあと、自身が抱えた問題も率直に語った。「食堂かんまき」のスタッフの考え方に不協和音が出たことや、スタッフ・ボランティア間の意識や情報格差などを抱えたことなど、いくつかの問題点を克服しながら、「持続可能な居場所づくりへ」と動き出してきた体験を述べた。とてもパワフルで興味深い話だった。

平群谷をフィールドワーク

「平群十三峠の伝承と生活文化」をテーマに

「人権パートナー養成講座」が11月1日にあった。「平群十三峠の伝承と生活文化」をテーマに平群谷を歩いた。コースは近鉄竜田川駅－平群神社－大門の六字名号碑－関取頭彰碑－四ツ辻古墳群－四ツ辻－四ツ辻の大墓－石床神社旧社地－筆神の阿弥陀仏－石床神社－消渴神社－下の井戸－今池－井文字川－黒元橋の六字名号碑－烏土塚古墳－近鉄竜田川駅。県立同和問題関係史料センターの大西誠さんが案内した。



平群谷は県北西部に位置し、東側の矢田丘陵と西側の信貴生駒山系に挟まれた谷地形をいう竜田川の中流域。平群神社から若井大門の地蔵道の側に建つ「六字名号碑」(南無阿弥陀仏と彫られている)を過ぎ、道標をかねた「関取頭彰碑」が道ばたにある。十三街道沿いに急勾配をのぼると、丘陵地帯に四ツ辻古墳群が広がる。20基ほどが確認されている。1号墳は横

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

日韓両政府は一昨年12月、「慰安婦」問題で「合意」。「最終的かつ不可逆的に解決」とした。だが、その後も、「当事者抜きの解決」だとして、反発が続く。日本社会と国際社会の捉え方には、大きな隔たりがある。そこには、戦争責任の問題、人権問題が絡む。日本は加害者意識が乏しい。人権と尊厳を著しく侵害したとの認識がない。大阪市はサンフランシスコ市が慰安婦像の設置を受け入れたことで姉妹都市関係を解消した。日本政府も「少女像」の撤去を求めている。歴史的事実や記憶を消し去りたいようだ。心から謝罪し、和解に向けて努力しないと、国際社会の信頼を失う。

穴式で6世紀頃のもの。四ツ辻の大墓は死者を土葬した越木塚の「埋め墓」だ。

平群町内の信貴畑や榎原では、埋葬する「埋め墓」と、お参りする「参り墓」を設ける「両墓制」が採られた。石床神社旧社地。ここは元々社殿や本殿はなく、中央に亀裂の入った高さ6m、幅10数mの巨大な岩を御神体とし、「陰石」として祀られてきた。大正13年(1924)に素盞鳴(すさのお)神社の社地に遷座し、本殿や拝殿が設けられた。消渴神社は古来素盞鳴神社の末寺。女性の病に御利益があるとされ、大阪からも多くの参拝者が十三峠を越えて訪れた。

下の井戸は「北垣内の御神水」とされ、越木塚北垣内集落の井戸で上部に瓦葺きの覆屋が建つ。「烏土塚古墳」は前方後円墳で全長60m。平群谷最大の古墳。6世紀中期の築造とされる。横穴式石室と羨道にそれぞれ1棺ずつ家形石棺を安置。少なくとも2体以上が埋葬されていたと考えられている。

学ぶたびくやしく、うれしく

特別展『夜間中学生』－学ぶたびくやしく・学ぶたびうれしくが10月18日から12月16日までリバティーおおさかで開催中だ。50年前、「タカノマサオ」さんらが始めた「夜間中学増設運動」。その闘いの写真や資料とともに、花開いた夜間中学の活動や闘いを紹介している。



「守口夜間中学 恨・ハン」と「長栄夜間中学 462人のオモニ宣言」

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833
E-mail:info@nponara.or.jp
http://www.nponara.or.jp/